

「知財広め隊」を目玉事業に

自社商品やブランドの保護など知的財産権への注目度が増す中で、弁理士の役割と活動への期待が高まっている。近年は、経済のグローバル化によって弁理士の活躍の場も広がっており、その社会的使命も多様化している。このため、日本弁理士会が7月3日に東京・虎ノ門のホテルオークラで開いた「弁理士の日 記念祝賀会」では、知財活用の促進に向けて全国の弁理士が協力していくことを確認し、今年度の主要事業の一つの「知財広め隊」の結団式も行われた。また、祝賀会に先立って記念講演も開催され、2014年にノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学の天野浩教授が、「世界を照らすLED～大学における知財の創成と展開～」をテーマに話した。

「弁理士の日」は、1899（明治32）年7月1日に「特許代理業者登録規制」として弁理士制度がスタートしたのを記念して、日本弁理士会が制定した。日本経済と産業界へのさらなる貢献を決議する場として、毎年、7月1日の前後に祝賀会やシンポジウム、無料相談会などを開催している。弁理士制度は今年で118周年を迎える。2年後の2019年には120周年の節目を迎える。制度が発足した当時138人だった弁理士は現在、1万1000人を超え、扱う案件も多岐にわたっている。

事業環境のグローバル化に伴い商品やブランド保護のために企業が弁理士を活用するケースも増えてきている。とはいえ、企業の弁理士活用は、まだほんの一握に過ぎない。しかも、そのほとんどは大企業で中小企業はごくわずかだ。このため、弁理士会では中小企業の知財活用の促進を目的に、今年度から「知財広め

隊」事業をスタートした。

記念祝賀会で挨拶した渡邊敬介会長は「『知財広め隊』は、地域の弁理士と地域の中小企業が一緒に参加するセミナーとその後の交流会をセットにしたもの。中小企業に興味をもってもらおうなどのテーマでセミナーを開催し、その後の交流会で地元の弁理士と知り合ってもらうという機会をもつことが目的です」と説明した。知財広め隊は19日に開いた福島県郡山市を皮切りに、今期は全国約50カ所での開催を計画。渡邊会長は「近くで開かれた時にはぜひとも積極的に参加していただき、その際には交流会で知財の活用方法、特に、中小企業がどのようにして知財を経営に取り込んでいくかについて、適切なアドバイスをしていただきたい」と要望し、「少しでも知財を取り入れる中小企業が増えることを期待しています」と話した。

IoT（モノのインターネット）やビッグデータ、AI（人工知能）などのデジタルネットワーク分野の技術革新などを背景に、第4次産業革命が進行しつつある。こうした時代を乗り切るために今後、知財創造リサイクルを活性化することが重要となる。知財リサイクルの活性化は弁理士の業務環境改善にもつながるため、弁理士会では今年度、弁理士の業務拡大や弁理士に係わる環境の維持に取り組んでいく。

具体的には、弁理士のコア業務を広げ

ていくために、中小企業、大企業、外国企業にわけてそれぞれ対策を講じていく。中小企業には知財の有用性を認識してもらうことに特化した地域セミナーを開催する。これが「知財広め隊」のことである。今年度の目玉事業と位置づけている。祝賀会の結団式では、知財広め隊の団長を務める弁理士の小西富雅氏が「日ごろ知財になじみのない中小企業に知つてもらうことが課題。セミナーや交流会を通して、なじみのない人の課題や悩みについて直接話す機会をもつことは非常に役に立つ」と意気込みを語った。

また、大企業に対しては特許の出願状況や収益の変化などを調査して、出願数の減少傾向に歯止めをかける有効な手立てを検討。外国企業には、今年2月にアメリカで実施した海外企業の国内出願を促進するイベント「Discover IP Japan」が好評だったため、その継続や国際会議におけるブース設置などでわが国への出願を促進する。

このほか、弁理士の周辺業務拡大に向けて、情報技術の秘匿化業務、標準化を含めたオープン&クローズ戦略、知財契約、知財価値評価、知財金融、水際対策、知財教育などの分野に、さらなる進出が可能となるように支援。国際的課題に対しては、各国弁理士会と連携して対応していくほか、事務所経営改善支援、支部における会員の活躍の場の拡大、非弁行為の取締強化などを積極的に行って



記念祝賀会で挨拶する日本弁理士会の渡邊敬介会長

いく。

一方、東京・内幸町のイイノホールで開かれた記念講演では、天野教授が青色LED研究の舞台裏などを解説。その後、大学の知財管理の状況などに触れ、「知財の維持管理のために基金を募っているが、アメリカの大学と比べると2桁も3桁も基金の額が違う」と現状を説明した。そのうえで、「(日本の大学は)よく海外出願を国の支援に頼っているのが現状である」と危機感を募らせ、「新たな基金を立ち上げたので、皆さんの知恵や尽力をいただいて新しい産業を我が国から盛り上げていきた」と語った。



「知財広め隊」の結団式



講演する名古屋大学の天野浩教授

近畿支部

人工知能の発展と展望など 4人が講演

大阪では7月1日、近畿支部主催の記念事業「知財ふれあいフェスティバル」が開かれた。講演会とイベントで構成され、それぞれ趣向を凝らした内容に講演会には406人、イベントには延べ4250人が参加、知財を身近に感じる一日となった。松下IMPホール（大阪市中央区）で開かれた講演会は、「人工知能最前線～AIの今を知り、未来を探る～」と題して、弁理士など4人が講演した。基調講演では、「人工知能の発展と展望」について産業総合研究所人工知能研究センターの麻生英樹副研究センター長が登壇。このほかにも一般講演として、人工知能とビジネス、楽曲生成などについて弁理士や大学教授らが解説した。

ツイン21アトリウム（同）でのイベントは、「身近に楽しむ知的財産」がテーマ。空気パワーやバランス大実験などのサイエンスショーをはじめ、回転台や万華鏡などの発明工作教室が開かれた。同教室では今回、翼に似たウリ科の植物であるアルソミトラの種子を真似たグライダーの制作も行われた。また、先端技術の体験コーナーでは、視力4.0の世界を体験できるメガネ型ウェアラブル端末を使ったラジコンカーの疑似運転が開かれた。

このほか、弁理士会や近畿圏内の大学（京都大学、大阪大学、近畿大学）、大阪税関などによるブース展示や「はっぴょん」、「カスタム君」「浜寺ロースちゃん」という3体のマスコットキャラクターとの記念撮影会も行われた。



身边に楽しむ知的財産をテーマにイベントを開催

東海支部

ステージショーや工作教室で 小学生に知財の啓発

愛知県でも7月1日に、東海支部主催の記念事業「弁理士の日 記念フェスティバル」が愛知県岡崎市のイオンモール岡崎で開かれた。「商標を知つて偽ブランドにダメされないようにしよう」をテーマに、ステージショーや工作教室などが行われ、一般や園児、小学生ら約700人が参加した。

工作教室では、「分光器づくり」や「CDホバークラフトづくり」、「カレイドサイクルづくり」が行われ、小学生ら約180人が参加した。また、名古屋市を拠点に活動するローカルアイドルグループ「OS☆Uステージ」には、午前と午後の2回あわせて約300人が集まった。登録商標が付いている商品を探すと商品券がもらえる「商標を探そう！」というイベントも開かれた。

このほかにも知財啓発を目的に、名古屋税関による偽ブランドの展示や知的財産相談会などを実施。偽ブランド展示に



工作教室には約180名が参加

は、マスコットキャラクターの「はっぴょん」とともに、岡崎市の非公式キャラクター「オカザエモン」が登場し、大いにぎわった。